

### 単元名（教材名）

温度とものの変化(3)「水のすがた」(啓林館『わくわく理科4』)

### 本時の目標

水を熱すると水蒸気になることを理解している。 [A物質・エネルギー(2)ア(ウ)]

### 読解力向上プランVer. 2における指導のポイント

- ①「～を・・・という」のような定義文を全員で確認するようにし、定義を「とは」を使って説明させる。
- ②具体例を挙げて説明させたり、理由を口頭で説明させたりして、知識を習得できているか確認する。

	学習活動	指導上の工夫
導入	○前時の復習をした後、「水蒸気」の用語の定義について確認する。	
展開	○図を見て、「水」か「水蒸気」かを考える。  ☆自他の考えを比べる。	・やかんに入れた水が沸騰している様子について表した図を見せて、「水」か「水蒸気」かを考えさせる。  ・そう考えた理由を交流させた後、教科書157ページを読ませ、各自で答え合わせをさせる。
まとめ	○教科書157ページの図を見ながら教師の説明を聞き、「蒸発」についても学ぶ。	

### ☆板書例

**復習**

- ・水がふっとうしたときに出てくるあわの正体は、水である。
- ・あわは水が目に見えないすがたに変わったものである。

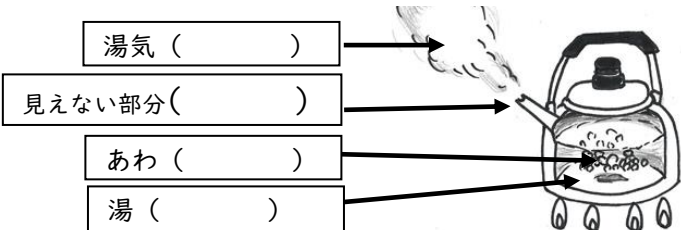
( )の中に「水」か「水じょう気」を入れよう。

湯気 ( )

見えない部分 ( )

あわ ( )

湯 ( )



水を熱し続けたとき、水の中からさかんに出てくるあわは、水が目に見えないすがたに変わったもので、このあわを**水じょう気**といいます。

水が水じょう気になることを**じょう発**といいます。水を熱した後、水がへっていたのは、水がじょう発して水じょう気になり、空気中に出ていったからです。

### ☆対話例

湯気は目に見えているので、「水」だと思うよ。

泡は見えているから水かな。



前回の授業で、泡は水が目に見えない姿に変わったものであることを確認したよ。

手の平で空気を捕まえて、お湯の中でそれを裏返すと泡が上がってくるよ。泡は空気目に見えないものだから、この問題の泡は水蒸気じゃないかな。

### ◇実践のポイント◇

児童にとって、目に見えない水蒸気の利用は難しいため、初めて水蒸気について学ぶ本単元の指導を丁寧に行うことが大切です。まず、水蒸気の利用の定義を声に出して読ませたり、ノートに写させたりして確認します。そして、問題を解く、自他の考えを比べる、教科書を読んで答え合わせをする、教師の説明を聞くという活動を通して理解を深めることができるように支援します。本授業に限らず、理科の利用を新しく学習する場面などでは、その理解を図るために、定義を基に考えたり、それを交流したりする活動を充実させることが大切です。

### ◇活用できる単元例や教材例◇

- 「じしゃくのふしぎ・・・きょく」啓林館『わくわく理科3』
- 「電気のはたらき・・・電気の流れる向き・電流」啓林館『わくわく理科4』